

令和7年度「ちばっ子の学び変革」推進事業  
研究状況報告書

君津市立周西小学校

## 君津市立周西小学校



周西小学校マスコットキャラクター  
「ふたばちゃん」

## 学校教育目標

「夢を持ち、かしこく・やさしく・  
たくましく生きる児童の育成」

児童数	447名
学級数	全19学級 (通常14・特別支援5)

# 本校の 研究主題

自ら考え、発信できる児童の育成  
～単元計画の作成と実践を通して～

＜全教科での実践＞

## 本校の現状

R6 学力・学習状況調査 質問紙より  
全国・千葉県の数値を下回った回答結果

- ICT機器を活用して協力・考えを共有する ↓
- わからないことを学び方を考えて工夫できる ↓
- 地域や社会をよくするために何かしてみたい ↓

# 課題

・協力して課題を解決したり、  
学び方を工夫したりする力が  
十分に育っていない。

考えを共有し、  
協働的に学び合う場  
が必要

・主体的に学ぶ、社会に関わ  
ろうとする姿勢が弱い。

成功体験を積み重ね、  
自信につなげたい

# 研究の方向性

日頃の学習の様子

自分の考えを表現することが苦手

わかりやすく表現できない

自分の考えを整理して伝える

自分の考えを共有し、  
学び合い、課題を解決する

主体的に学び、社会と関わる

相手に伝えたい・わかってもらいたいという児童の思い

+

表現力

相手意識

目的意識

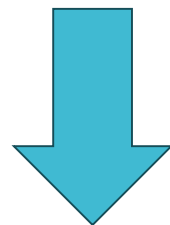
表現の技能

自分の考えを相手に伝えるための「発信力」を育てる

## 本校の 「発信」の捉え

相手への思いをもち、言語能力・情報活用能力、問題発見・解決能力を活用し、相手に影響を与えることができるように自分の考えを伝える表現活動

相手意識



伝えたいことに  
合わせた表現方法

相手に伝え、相手の考えや行動の変化や、反応をもらうことで  
目的が達成される

## 研究仮説

- 相手への思いをもたせ、自分の考えを伝える場を設定した単元計画を作成し、取り組むことで、進んで発信する力が育成できるだろう。
- 自分の考えを発信し、相手に考えを理解してもらう経験を重ねることで、自分の考えを進んで伝えてみようと意欲的に学んでいくことができるだろう。

## 目指す児童像

相手に伝えたいという思いをもち、  
自分の考えを進んで発信できる子

低学年	自分の思いをもち、相手に伝わるように進んで発信できる子
中学年	自分の思いをもち、相手にわかりやすく伝わるように工夫して発信できる子
高学年	自分の思いをもち、相手に影響を与えることができるように伝え方を工夫して発信できる子



## 研究内容② 発信の計画、 振り返りの 充実

- 「誰に、どのような目的で発信するのか」  
発信の計画をし、相手への思い、伝える目的を  
明確にする
- 発信した相手からの感想や反応、評価を受け取り、  
自分の発信の目的は達成されたのか、振り返りを行  
う。



次の発信の改善につなげていく

## 研究内容③ 多くの発信や 受信の場を設定し、経験を積む

- 様々な教科、単元の中で場作りを行う。
- 教師モデルを示し、「受信」の経験を、発信への工夫や動機付けとしていく。

1年生が全校に向けて校外学習  
で見た海の生きものについて  
知ってほしいと生活科の学習で  
クイズを考えて放送しました。

# 1年生の実践

## ①発信に関わる単元計画表の作成

発信全体計画 1年		通信教育	遠隔授業実施	主に課題形式、発表形式	■発信の場がある単元	■発信の場がある単元
単元	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期
国語			<p>『物語のつくりかた』</p> <p>物語のつくりかたを学ぶ。『ついでに』</p> <p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『物語のつくりかた』</p> <p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p> <p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p> <p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p> <p>『ついでに』のつくりかたを学ぶ。</p>
算数			<p>『数のつくりかた』</p> <p>数のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『数のつくりかた』</p> <p>数のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『数のつくりかた』</p> <p>数のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『数のつくりかた』</p> <p>数のつくりかたを学ぶ。</p>
理科				<p>『物質のつくりかた』</p> <p>物質のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『物質のつくりかた』</p> <p>物質のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『物質のつくりかた』</p> <p>物質のつくりかたを学ぶ。</p>
社会				<p>『社会のつくりかた』</p> <p>社会のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『社会のつくりかた』</p> <p>社会のつくりかたを学ぶ。</p>	<p>『社会のつくりかた』</p> <p>社会のつくりかたを学ぶ。</p>

# 1年生の実践

## 生活科

あきとなかよし  
～あきまつりをしよう～

### ②発信の計画、振り返りの充実

- ・地域の保育園児を秋祭りに招待する。
- ・相手意識・目的意識を高める、持たせるための単元計画。
- ・「伝える相手への思いを育む場」を単元の導入場面で設定する。

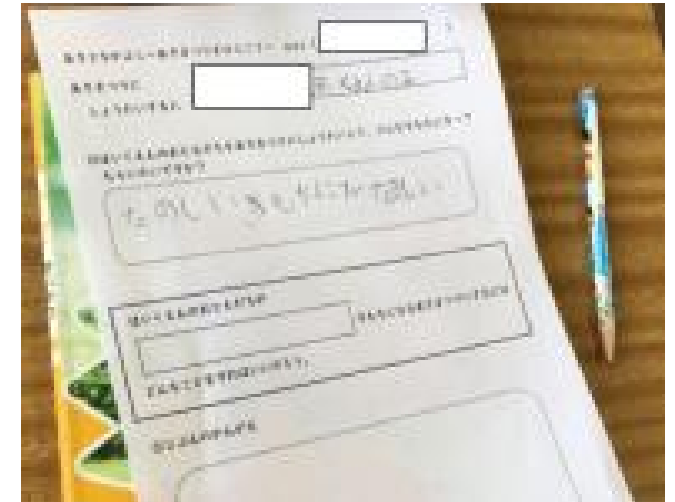
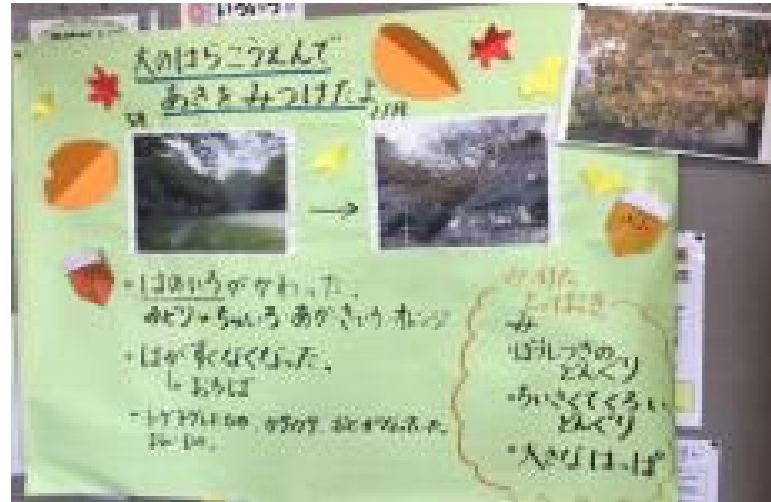
### ③多くの発信や場の設定

- ・生活科「もうすぐ2年生」の発信のゴールに向けて、意図的な発信の場の設定を行った。
- ・グループでの意見交換→学級内で紹介し合う→学年や学級の友だちと交代で園児役を行い説明練習をする→園児へ伝える。と発信の場を発展させていった。

# 1年生の実践

## 生活科

あきとなかよし  
～あきまつりをしよう～



生活科で秋を楽しみ、学んだことを生かして保育園  
児を楽しませようと話し合い活動を行った。

### 成果と課題（成果○・課題▲）

- 話し合いや友だちとの交流、観察など相手意識や目的意識を持って活動する経験ができた。
- スモールステップを踏むことで、話し合いの仕方がわかり、活発な話し合いをすることができた。
- ▲話し合い活動では「話し方の進め方や形」を提示しすぎてしまった。
- ▲発信力ありきの単元計画、進め方になってしまい、生活科の「秋を楽しむ」という目標がおろそかになってしまった。



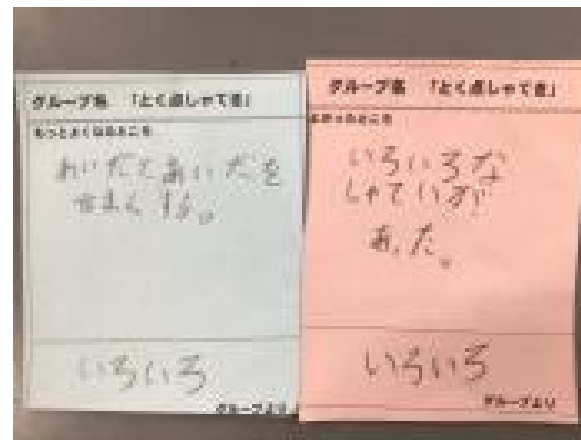
# 2年生の実践

## 生活科

せかいでひとつ  
わたしのおもちゃ

### ③多くの発信や場の設定

- ・発信の対象を1年生にすることで、1年生の反応や理解を想像し、より相手にわかりやすい説明の仕方ができるようにする。
- ・自分のおもちゃを決める→同じおもちゃのグループで活動する→別のおもちゃを作っているグループと活動し、アドバイスを伝える→1年生をおもちゃランドに招待する。と発信の場を発展させていった。



アドバイスカードは、よかったところ・  
もっとよくなるところの2種類を使った。

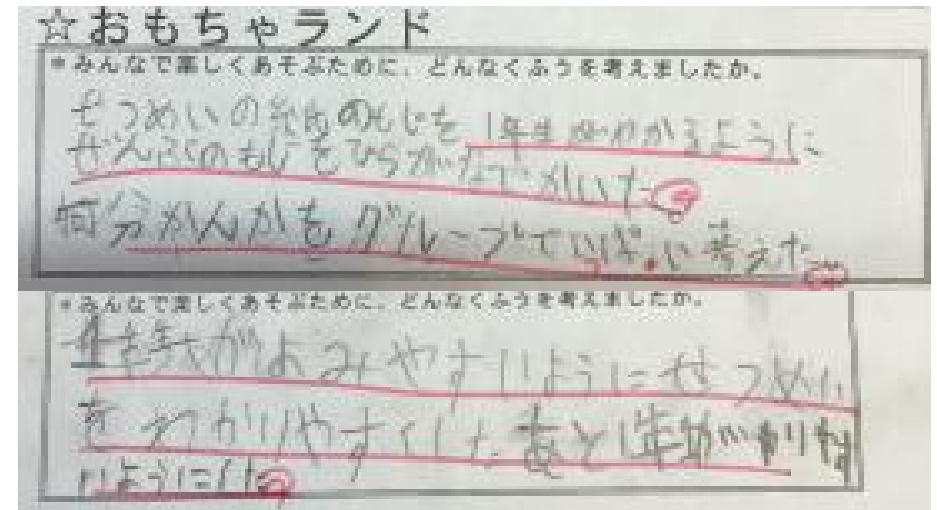
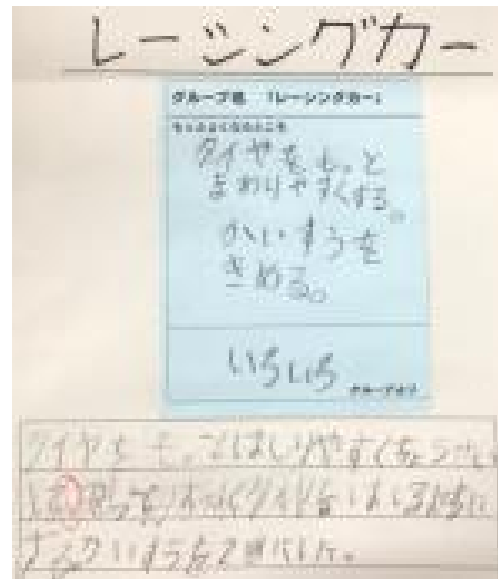


アドバイスカードをもとに、話し  
合い活動を行った。

# 2年生の実践

## 生活科

せかいでひとつ  
わたしのおもちゃ



1年生のために、1年生が、という振り返りがした児童が多かった。相手意識を持って活動できていた。

### 成果と課題（成果○・課題▲）

- アドバイスカードをもとに話し合いが活発になり、よりよいおもちゃ作りにつながった。
- 相手意識を持たせたことで、1年生のことを考えた話し方ができていた。
- ▲話し合い活動に時間がかかり、おもちゃで遊ぶ時間や改良する時間が少なくなってしまった
- ▲発信力を意識しすぎ、「自分が楽しむ」という生活科の目標がおろそかになってしまった。



# 3年生の実践

## 国語

### わたしたちの絵文字

#### ②発信の計画、振り返りの充実

- ・総合的な学習の時間の「きみつの町じまん」を発信のゴールに設定し、話し合いの役割分担を理解できるように、話し合いモデルを活用する。
- ・話し合い活動の充実を図り、話し合いのポイントを短い言葉でまとめる「話し合いレシピ」を作り上げ、今後の活動に生かせるようにする。

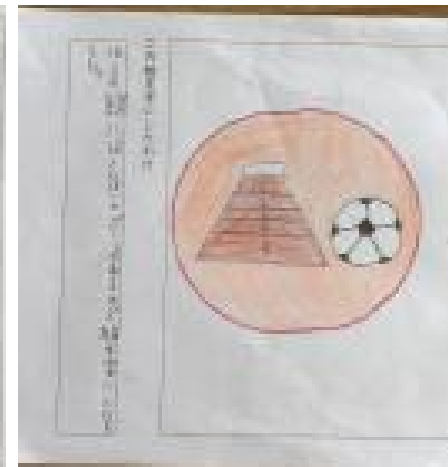
#### ③多くの発信や場の設定

- ・話し合い活動を通して作成した絵文字を校内に掲示し、全校児童や先生方からコメントをもらう場面を設定する。

# 3年生の実践

## 国語

### わたしたちの絵文字



司会・発言者・記録と役割分担を行い、話し合い活動を進めた。テーマに沿った話し合いになり、誰でもわかるような絵文字をつくることができた。

#### 成果と課題（成果○・課題▲）

- 話し合いのモデル動画を視聴することで、具体的な話し合いのイメージを持つことができ、役割分担もよくできていた。
- 役割別に用意したワークシートは話し合いを行うのに有効だった。
- ▲子どもたちが話し合う必然性を感じられるテーマだとよい。



# 4年生の実践

## 国語

みんなが楽しめる  
新スポーツ

### ②発信の計画、振り返りの充実

- ・ 聞き手を意識した提案場面の設定をする。
- ・ 提案方法を文字や絵、言葉を使った教師モデルを提示し、聞き手の立場として提案方法の良さを考えさせていく。
- ・ 振り返りでは、カードを活用し、「話し手」と「聞き手」の両方の立場で行うことで相手意識を持たせていく。

### ③多くの発信や場の設定

- ・ 総合的な学習の時間「周西小安全マップを作ろう」を発信のゴールとし、相手を意識した内容や資料を作り、話し合いを重ねていく。
- ・ 4名程度のグループでの話し合い活動を行い、発言することや考えを比較しながら聞くことを経験させていく。

# 4年生の実践

## 国語

みんなが楽しめる  
新スポーツ

### <言葉だけの提案>

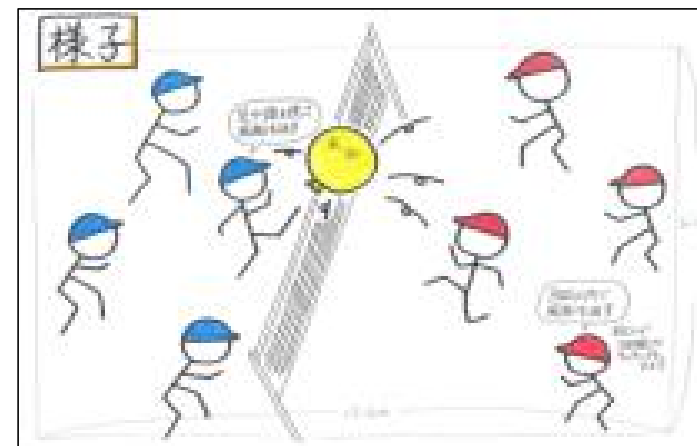
**新セパタクローについて**

人数 1チーム5人 使うもの 風船

**ルール**

- 新セパタクローは5人で1チームになり、ネットをはさんで2チームで対峙し合う。
- 先に1回通ったチームが勝ちとなる。1回通らなかつた場合は、どちらかが2点差をつけるまで、試合を続ける。
- 3メートル以内のジャンプで相手のコートに風船を飛ばして行う。同じ人が3回跳けて、風船はジャンプしても良い。
- 風船をタッチするは、ジャンプを使ってはならない。足で踏んで相手のコートに風船を飛ばす。
- コート内ではローテーションはしない。
- コート内の広さはたて1.5m、横も1.5m
- ネットの高さは1.30m

### <絵だけの提案>



言葉だけの提案、絵だけの提案、組み合わせた提案と教師モデルを提示することで、それぞれの良さに気づくことができた。

### 成果と課題（成果○・課題▲）

- 教師モデルの提示では、言葉だけの提案、絵だけの提案と意図的な提案の仕方をするすることで、それぞれの提案方法の良さに気づき、相手を考え、組み合わせを考えることができた。
- ▲「みんななら、どのようにセパタクローの良さを伝える？」など発問を工夫することで、より相手意識を高められたと感じる。



# 5年生の実践

## 国語

「図書すいせん会」を  
しよう

### ②発信の計画、振り返りの充実

- ・「推薦デザイン」（作品作りのためのメモや下書き）を活用し、相手意識や伝えたいポイントをはっきりさせる。
- ・「図書すいせん会」後には、自己評価と他者評価から自身の発信を振り返る機会を設け、発信する力を改善できるようにする。

### ③多くの発信や場の設定

- ・図書を推薦する相手や方法を児童自身が決めることで、より相手意識を持たせ適切な表現ができるようにしていく。
- ・発信と受信の機会を大切にし、対話することによって見直しを図っていく。発信・受信・対話・改善のサイクルを意図的に作る。

# 5年生の実践

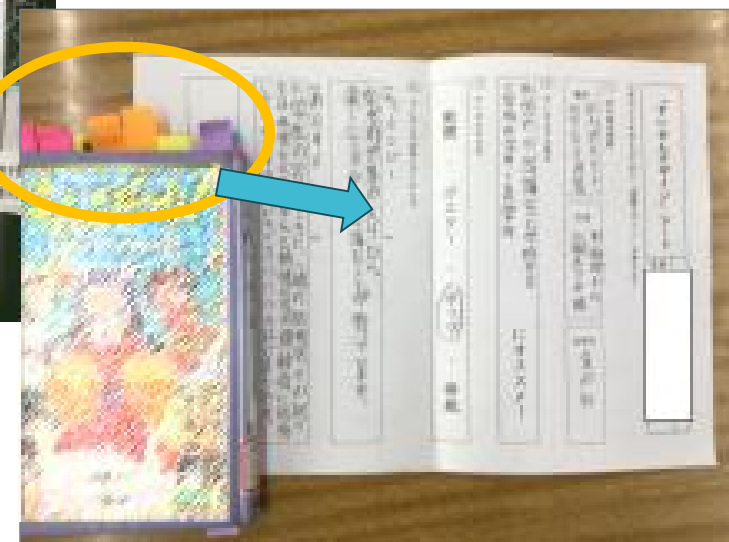
## 国語

「図書すいせん会」を  
しよう



伝えるポイント、表現のポイントなど、推薦する際に意識するポイントがはつきりした。

付箋を活用したことで推薦する際に必要な情報を整理することができた。



### 成果と課題（成果○・課題▲）

- 読書の際には付箋を活用し伝えたいことを整理することができた。
- 表現方法を選択させたことで、より主体的に取り組むことができた。
- ▲前單元において、あらすじやキャッチコピーを書く力をもう少し身に付けておきたかった。



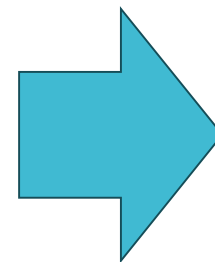
# 6年生の実践

## 総合的な学習の時間

修学旅行に行こう！

### ③多くの発信や場の設定

- ・相手を変えたプレゼンテーションの機会を設けることで、相手意識を持たせ発信力の向上を図る。
- ・発信のポイントをまとめたチェックシートを作成し、相手にわかりやすい発信につなげていく。



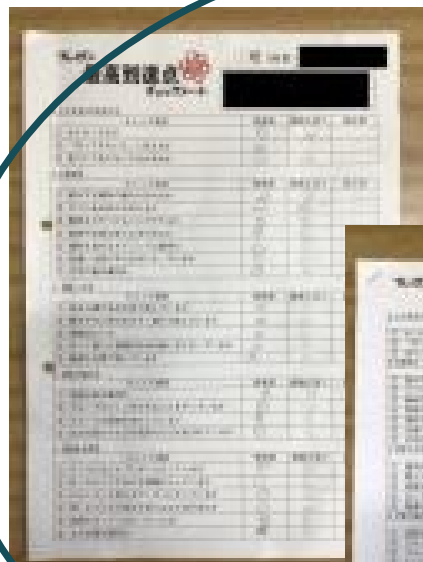
どんなプレゼンテーションがよいかをとりまとめ、最高到達点チェックシートを作成した。

参考：付箋ツール「ふきだしくん」  
株式会社ティーファブワークス

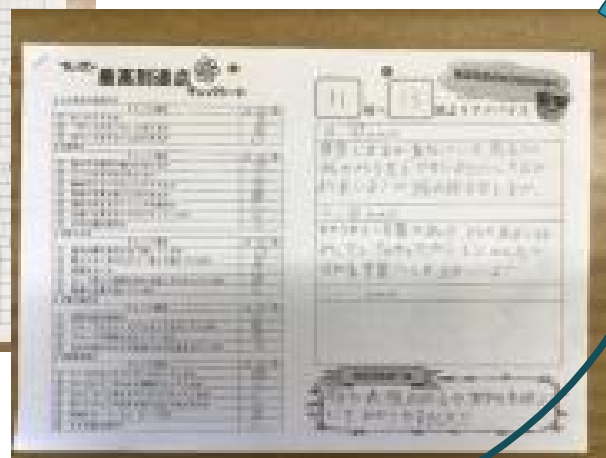
# 6年生の実践

## 総合的な学習の時間

修学旅行に行こう！



発表の様子を動画に撮り、自分たちで振り返りを行う。



発表を見合い、相手の評価を行う。

自己評価と他者評価をもとに、相手意識を高め、よりわかりやすい発表を目指す。



### 成果と課題（成果○・課題▲）

- 最高到達点チェックシートは、自分たちで確認することや他グループから評価してもらうことでわかりやすいプレゼンテーションにつなげることができた。
- 5年生に発表後、フィードバックしてもらうことで、改善点を見つけることや達成感を感じることができ、意欲を高めることができた。
- ▲テーマの設定に基づき、そのテーマに沿って探究する学習にしていくとよかった。

# R7年度の 成果と課題

## 成果と課題（成果○・課題▲）

- 発信力を育てるために、全教科の年間指導計画の見直しを図ることができた。教科等横断的に育てたい力を捉えることができた。
- 多くの児童に発信の経験をさせることができた。
- 相手意識を高めることができた。

※発信のゴールに設定した単元がまだ終わっておらず、年度末に発信に関する意識調査と実態調査を行う予定である。今年度の児童の変容、成果と課題を明確に次年度につなげていきたい。

- ▲発信に関わる力を身に付ける学習では、教科や単元のねらいがずれないようにしなければならない。その単元で身に付けなければならないものは確実に学習できるように見直しが必要である。

## 次年度に向けて

- ・ 発信全体計画の見直しを行う。  
設定している発信の場では、そこまでにどんな力を身に付けていけばよいかを整理し計画を見直す。また、年間を通して1回にこだわらず、発信の場を複数回設定するなど検討する。
- ・ 「発信力」の共通理解を行う。  
何を発信力として捉えるのか、指導をしていく中で判断が難しいものがあった。今年度の反省を生かし、共通理解を図る。
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。  
「協働的な学び」の設定はとても充実していたと感じる。「個別最適な学び」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」につなげていく。

